

農山漁村における震災復興 - 都市農村交流による産業とコミュニティの再生 -

A Study on the Rehabilitation of villages from earthquake and Tsunami Disaster

代表 清野隆*

SEINO Takashi

キーワード：震災復興 (Rehabilitation from Disaster)、第一次産業 (Primary Industry)、コミュニティ (community)、都市農村交流 (Rural-Urban Exchange)

1. 研究の概要

(1) 研究の背景と目的

日本の食糧基地として農林水産業が盛んな東北地方は、2011年3月11日に発生した東日本大地震により甚大な被害に遭い、特に水産業の基盤となる漁港・漁場は壊滅的な状態に陥っており、産業の再生にはかなりの時間を要すると予想される。三陸海岸に刻まれた無数の入り江に点在する漁港・漁村の復興は、被災者の暮らしを再建すること他ならず、いかに彼らの生業である漁業を復旧するかが重要な課題となるだろう。他方、震災以前より、日本の農山漁村は人口減少、高齢化、産業の担い手不足といった問題を抱え、いわゆる限界集落化が指摘されてきた。したがって、限界集落化が進行していた漁村の震災復興においては、漁村コミュニティが抱える構造的な問題を解決し得る道筋を描かなければならない。このような現状に対して、観光の視点を取り入れた漁村の震災復興のあり方を提案したい。例えば、漁村の産業・産品、人々の暮らし、景観といった地域固有の資源を活用した都市農村交流に関する研究の蓄積を活用することが可能である。

本研究は、被災した漁村の産業に関連する物的・人的資源の被災状況と産業に携わる住民たちの意向を明らかにし、被災地が抱える様々な状況に応じた都市農村交流による産業とコミュニティの再生の枠組みを検討することを目的とする。

(2) 研究組織

本研究組織は、研究目的に即して、さまざまな専門領域に精通した研究者6人から構成される(表1)。コミュニティ・デザイン、農村観光、地域計画、国土計画、社会的企業、観光地理学の観点から、東日本大震災で被災した農山漁村の復興について研究を行う。

表1 研究メンバー

名前	所属	専門領域
清野 隆	立教大学観光学部	コミュニティ・デザイン、まちづくり
高 和雄	NPO 法人ふるさと回帰支援センター	農村観光、グリーンツーリズム
小山 環	株式会社ラック計画研究所 東京工業大学大学院情報理工学研究所	地域計画、都市農村交流
佐野 浩祥	立教大学観光学部	国土・地域計画
三浦 知子	立教大学コミュニティ福祉研究所 東京工業大学大学院社会理工学研究所	都市農村交流、社会的企業
山田 耕生	帝京大学経済学部地域経済学科	観光地理学、観光地域論

2. 研究活動

(1) 研究会の開催

これまでに合わせて6回の研究会を開催した(表2)。まず、現地調査、インターネットや新聞記事などの資料調査、政府、省庁、都道府県が発信する震災関連の情報の収集を行い、研究対象地の選定について議論を重ねた。その結果、宮城県南三陸町、同県石巻市小浜浜を対象地に選定し、調査活動を行っている。

(2) 現地調査

これまでに合わせて7回の現地調査を実施した。6月から9月まで研究メンバーが個別に現地調査を行い、研究対象地の選定を進めた。その後、10月に研究メンバーが合同で現地調査を実施した。

表2 活動記録(2011年6月1日~11月19日)

月日	内容
6月3~6日	現地調査(岩手県住田町、宮城県仙台市、同石巻市)
6月17日	第1回研究会
6月23~25日	現地調査(宮城県石巻市)
7月8日	第2回研究会
8月1、2日	現地調査(宮城県石巻市)
8月12日	第3回研究会
8月30日	現地調査(宮城県石巻市)
9月22日	第4回研究会
9月24日	現地調査(宮城県南三陸町)
10月3、4日	現地調査(岩手県住田町、宮城県石巻市)
10月7日	第5回研究会
10月15~17日	現地調査(宮城県南三陸町、同石巻市)
11月1、2日	現地調査(宮城県石巻市小浜浜)
11月9日	第6回研究会

*立教大学観光学部

3. これまでの活動の成果

(1) 調査活動の結果

①宮城県南三陸町

2011年10月15日から16日にかけて、南三陸町において現地視察を行った。詳細は以下の通り。

・佐藤仁南三陸町長へのヒアリング

佐藤町長より、町の被災状況や復旧・復興に向けた取組について話を伺った。特に被災以前から構築されていた外部とのネットワークが被災時に機能した点について詳しくお話を伺うことができた。

・南三陸復興ダコの会へのヒアリング、視察

南三陸復興ダコの会は、町内で数少ない被災を免れた地域である内陸部の入谷地区において、「オクトパス」などの復興グッズの製作などの活動を行っている有志の会であり、会長の高橋氏をはじめ阿部氏・村井氏にそれぞれお話をうかがった。住民の雇用を創出することや自律的に復興することの重要性、被災後の大学生研修の受入の実態やそれを活かした観光商品の可能性についての内容であった。また廃校を活用した復興グッズの工房の視察も行った。

・南三陸ホテル観洋へのヒアリング、視察

被災後、避難所および町のコミュニティ拠点として大きな役割を果たしたホテル観洋へ伺い、女将の阿部氏に被災時の状況やその後の取組についてお話をうかがった。震災のような非常時における観光施設の多面的な役割について確認することができた。

・南三陸町中心部の視察

骨組みだけが残った3階建の防災対策庁舎をはじめ、南三陸町の中心部を視察した。津波の恐ろしさを肌で実感すると同時に、復興に向けて息の長い取組が必要であることを再認識する機会となった。

②宮城県石巻市小湊浜（10月16日午後、17日午前）

10月16日午後、および17日午前に石巻市小湊浜を視察し、ヒアリング調査を行った。

・小湊浜通信へのヒアリング調査

16日午後に小湊浜で復興支援活動を行っている小湊浜通信の佐藤氏、地元の漁師へのヒアリング調査を行い、小湊浜における漁業関連の被害、漁業の再開状況、今後の活動計画、予定について話を伺った。

・民宿めぐろへのヒアリング調査

16日夜、17日午前中に民宿めぐろ経営者とスタッフへのヒアリング調査を行い、3月11日の状況、被害状況、被災者、復興支援の受け入れ、被災後の民宿営業

再開に向けた取り組みについて話を伺った。

③石巻市街地

10月17日に石巻市を視察、ヒアリング調査を行った。

・石巻2.0の視察、関係者へのヒアリング

石巻工房、かめ七呉服店、鮮魚店のプロショップまるかを訪ね、石巻で活動する団体や事業家から話を伺った。コミュニケーションを生み出す「場」の重要性、再開に向けての始動時期が早かったこと、周辺のやりがいや元気を牽引してきたことなどが復興に向けて重要であることが確認された。

(2) JITR 全国大会での発表

本学会全国大会学術論文に「南三陸町の震災復興における観光ネットワークの意義」（主著：佐野浩祥）、「東日本大震災後の漁村集落の震災復興プロセスにみる観光の役割」（主著：清野隆）を投稿した。

(3) 2012年度科学研究費補助金への申請

来年度の科研費・基盤研究(C)「観光学」に申請中である。研究課題は「震災復興期における都市農村交流を活用した産業とコミュニティの再生に関する計画論」と題し、同メンバーで研究チームを組織した。具体的な内容は、本研究で着目した観光ネットワークを災害時だけでなく、平常時の都市農村交流に敷衍させるための計画論を構築することを目的としている。

4. 今後の展望

本研究が着目する観光ネットワーク、および被災地支援のネットワークの潜在力は高く評価されるべきである。しかし、震災復興期に継続して実効性を発揮できるかは明確ではない。今後の展望として、上記のネットワークが具体的な復興への推進力となりうるか、どのような形で被災地の復興に寄与するのかに注目したい。被災を免れたホテルや民宿が今後も様々な活動のプラットフォームとなり、地域住民の生活基盤を整えるきっかけとなることが期待される。そのためには、震災以前と異なるかたちで集落内の組織化を進めることも必要である。様々な立場の住民が協働し、新しい小湊浜の集落像を築くことで、復興が達成されると考えられる。以上の点に注目しながら、南三陸町、石巻市での調査を重ねて、今後の展開を把握する。

【謝辞】

本研究では、本文に名前を揚げさせていただいた方をはじめ、石巻市、南三陸町の住民の皆様、(株)東北地域環境研究室代表・志賀秀一氏にお世話になりました。記して、感謝申し上げます。